7. 水源地域動態

7.1. 評価の進め方

7.1.1. 評価方針

水源地域動態の評価は大きく 2 つの流れにより評価を行う。1 つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきかなどの評価を行う。

もう 1 つの流れとして、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行うものである。ダム周辺に整備された施設などが十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているかなどの評価を行う。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

7.1.2. 評価手順

評価方針のとおり大きく 2 つの流れにより評価を行い、とりまとめることとする。

作業のフローは図 7.1-1 に示すとおりである。

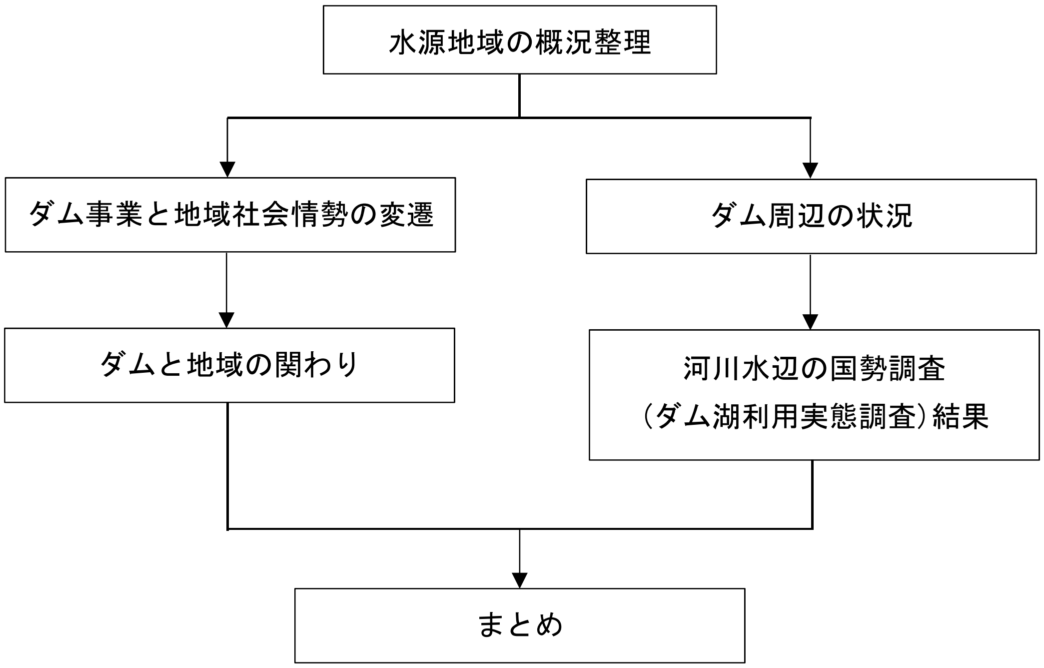


図 7.1-1　評価手順のフロー

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

(2) ダム事業と地域社会情勢の変遷

周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、ダムの影響とまでは言えないまでも関連がありそうな事項を抽出する。これらのまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握する。

(3) ダムと地域の関わり

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行う。

さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近 5 ヶ年程度のダム管理者と地域の交流事項等について整理し、ダム管理者の活動等について評価する。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理する。

なお、原則は「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めることとする。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

(5) 河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果

河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理する。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設(環境整備)の評価を行う。

(6) その他関連事項の整理

水源地域の社会動態に関わる既往検討資料、または景観検討資料、施設の維持管理に関する検討資料等、関連する資料があれば整理する。

(7) まとめ

以上より、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

7.2. 水源地域の概況

7.2.1. 水源地域の概要

猪名川は、淀川の派川である神崎川の右支川で、淀川水系に属している。一庫ダムは猪名川の支川である一庫大路次川に位置している。

猪名川の下流地域には、兵庫県尼崎市・伊丹市、大阪府豊中市、中流域には兵庫県川西市、大阪府池田市、上流域には兵庫県猪名川町などがある。

一庫ダムの水源地域(流域面積：115.1km^2)は、3 府県 5 市町にまたがっている。(図 7.2-1 参照)

ダム堤体は兵庫県川西市、ダム湖(知明湖)は兵庫県川西市・猪名川町、大阪府豊能町、上流部のほとんどは大阪府能勢町に含まれるが、一庫大路次川の最上流部は、京都府の亀岡市となっている。

また、ダム湖名「知明湖(ちみょうこ)」は昭和 58 年に川西市長が命名したもので、ダム湖に突き出した半島にある知明山(ちみょうやま:標高 349.2m)から取っている。知明山はかつて銀、銅を産出し、古くから奇妙な山ということで、奇妙山と呼ばれたが、それがなまって知明山となったといわれる。

(参考「ダム便覧」WEBサイト　http://damnet.or.jp/cgi-bin/binranA/All.cgi?db4=1511)

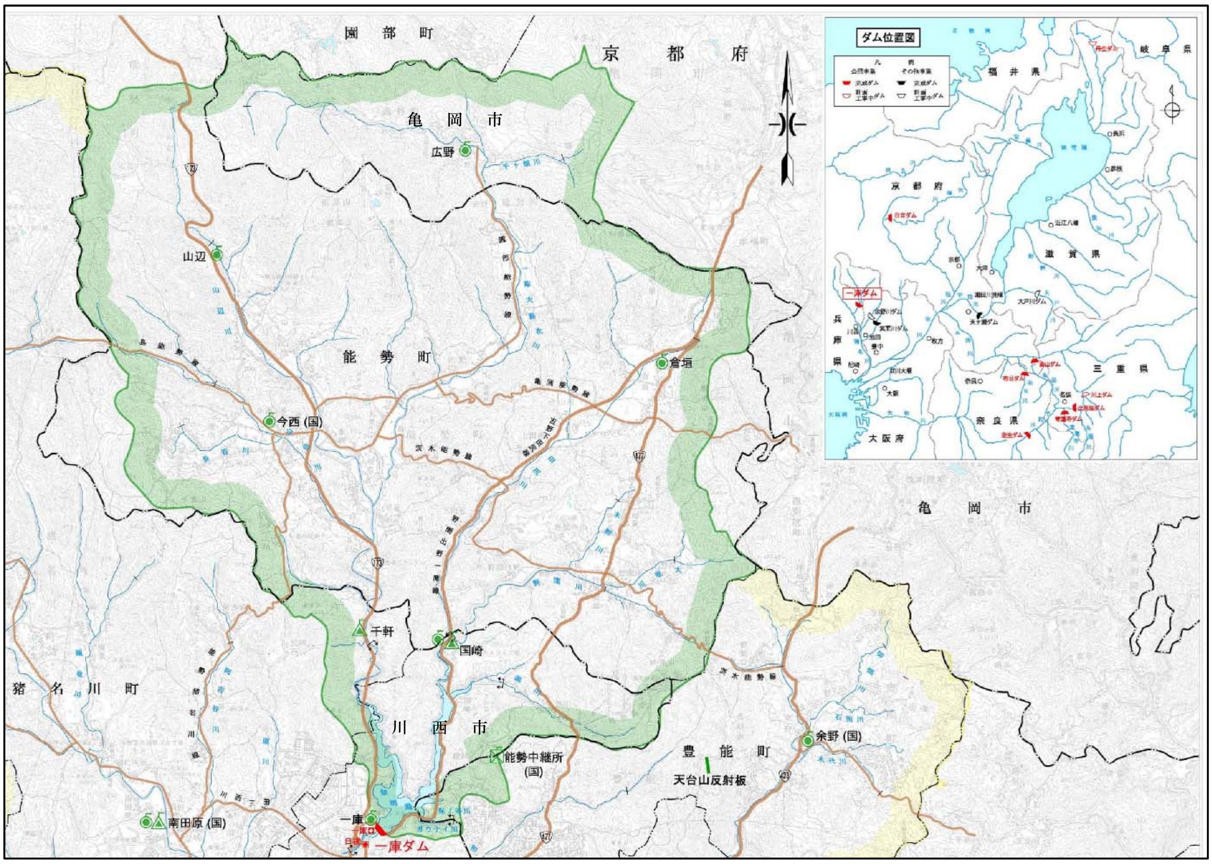


図 7.2-1　一庫ダム水源地域（流域界）

(1) 流域の状況

一庫ダムの流域は大阪府、京都府、兵庫県の 2 府 1 県にまたがって位置する。ダム堤体付近及び貯水池の多くは川西市(兵庫県)である。また、流域には、川西市(兵庫県)、猪名川町(兵庫県)、亀岡市(京都府)、豊能町(大阪府)、能勢町(大阪府)、の一部を含んでいる。

流域市町の面積及び流域面積を表 7.2-1 に示す。

表 7.2-1 一庫ダム流域市町の面積及び流域面積

	市町村 面積 (km^2)	一庫ダム 流域面積 (km^2)	流域面積 割合 (%)
川西市(兵庫県)	53.44	10.2	8.9
猪名川町(兵庫県)	90.33	3.6	3.1
亀岡市(京都府)	224.80	15.3	13.3
豊能町(大阪府)	34.34	1.5	1.3
能勢町(大阪府)	98.75	84.5	73.4
合計	501.66	115.1	100.0

(出典:国土交通省国土地理院「平成 30 年全国都道府県市区町村別面積調」)
(出典:「一庫ダム流域環境調査業務報告書」(令和元年 7 月))

(2) 人口・世帯数の推移

一庫ダム流域内における人口・世帯数推移を、図 7.2-2 に示す。

平成 27 年時点で、流域内人口は約 15,000 人で、大阪府能勢町の人口（10,042 人）が約 65％を占める。次いで、大阪府豊能町、京都府亀岡市畑野町、兵庫県猪名川町、兵庫県川西市の順である。

流域内人口でみると、S55～H12 の間に増加傾向が認められるものの、その後は減少傾向を示している。

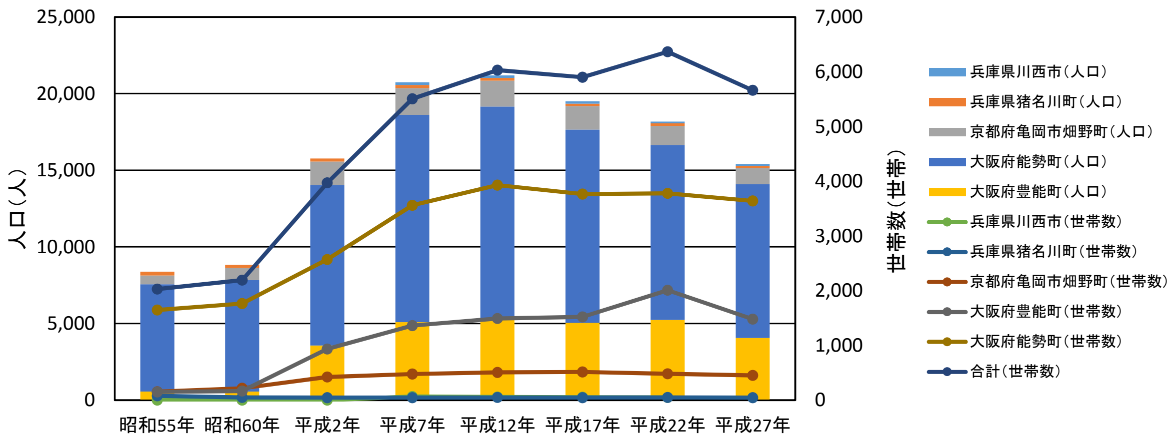


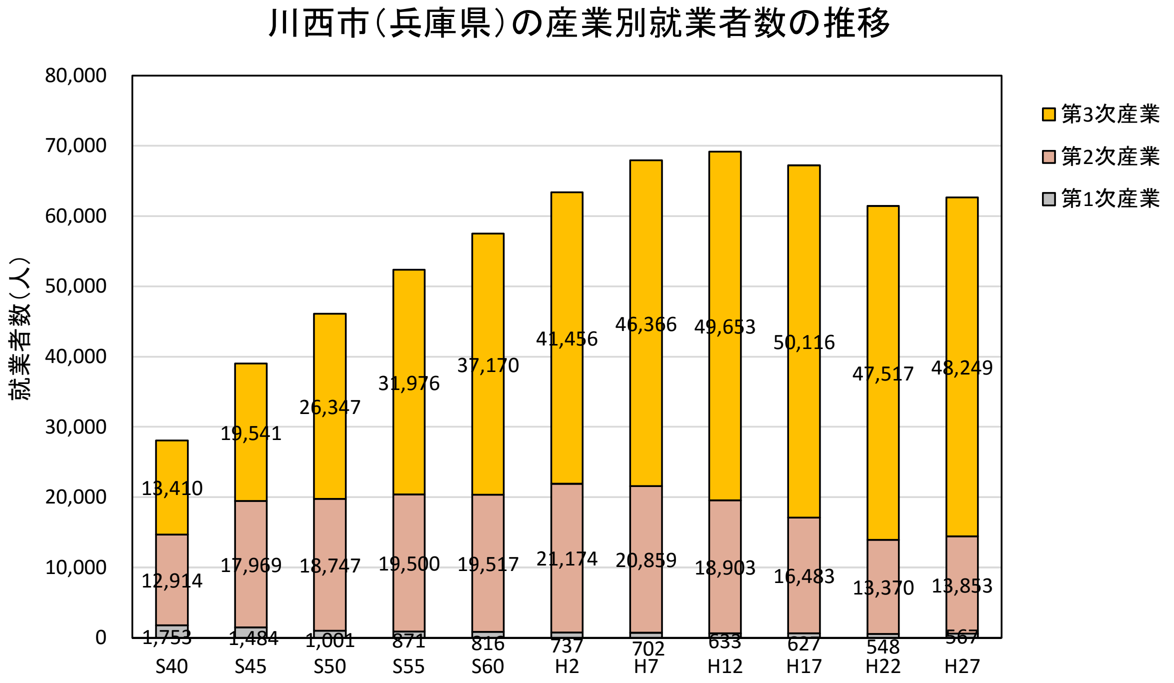
図 7.2-2 一庫ダム流域内の人口・世帯数推移

(出典:国勢調査)

(3) 産業別就業者数

兵庫県川西市と大阪府能勢町の産業別就業者数の推移は図 7.2-3 に示すとおりである。

両市町とも第 2 次・第 3 次産業に従事する就業者が多く、特に第 3 次産業の就業者が多くなっている。第 1 次産業の割合は、川西市では非常に少ないが、能勢町は「里山づくり」をまちづくりの基幹にしていることもあり、約 11%となっている。



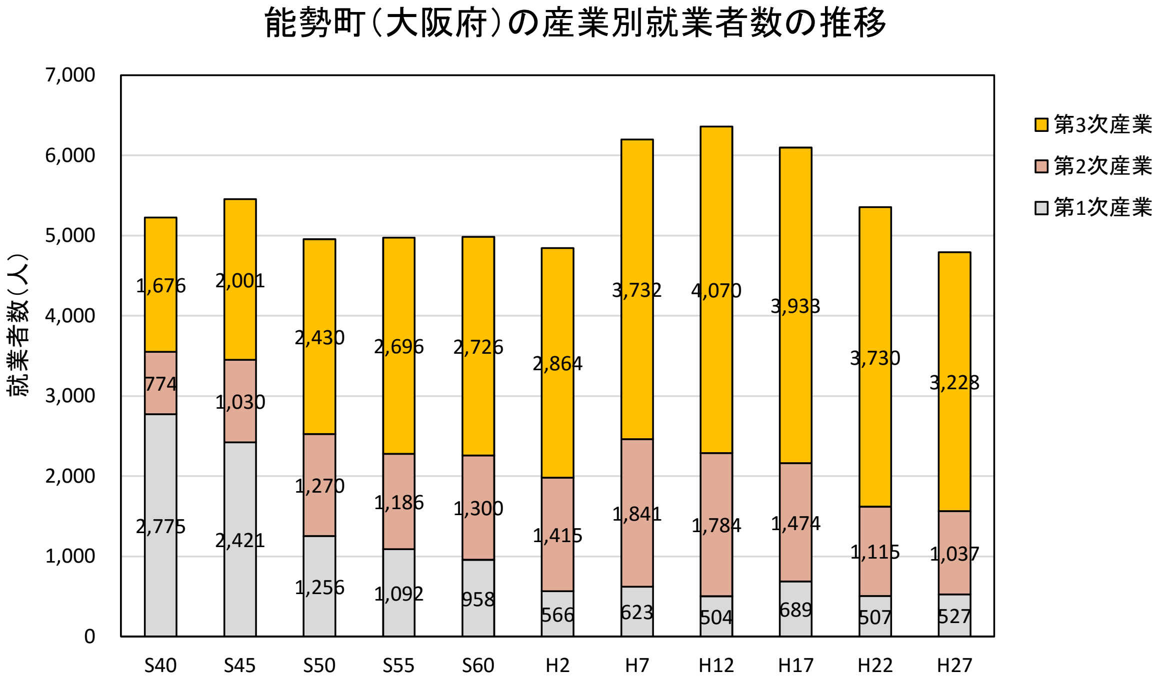


図 7.2-3 川西市(兵庫県)・能勢町(大阪府)の産業別就業者数推移

(出典:国勢調査)

7.2.2. ダムの立地特性

(1) ダムへのアクセス

一庫ダムは、兵庫県川西市の市街地から約 1～2km と非常に近い場所に位置し、右岸を大阪府池田市から延びる国道 173 号が、左岸をダム上流で国道 477 号と合流する県道 604 号が通っている。

自動車専用道路では、今まではダム湖から約 10km 程度の距離にある阪神高速池田線・池田木部 IC が最寄であったが、平成 30 年 3 月に新名神高速高槻～神戸 JCT 間が開通され、ダム湖から約 5km の地点に川西 IC が設置されたことで、アクセスが向上した。市街地からも近く、市民の憩いの場として利用しやすい立地環境にある。

自動車によるダムへのアクセス時間は、兵庫県猪名川町、大阪府の能勢町・池田市から 30 分以内、大阪府大阪市・堺市、京都府京都市から 1 時間程度である。

また、ダム下流 2km 程度のところに能勢電鉄日生線が通り（最寄り駅は「日生中央駅」「山下駅」）、能勢電鉄日生線「山下駅」からダムまで徒歩 7 分程度のところまで阪急バスが運行されている。公共交通機関を利用したアクセス性も比較的高い。

図 7.2-4　一庫ダム周辺の交通網

(2) ダム周辺の観光施設等

一庫ダム周辺地域は、歴史にまつわる観光資源が多く、図 7.2-5 及び図 7.2-6 に示すように、「ひとくら・知明湖周辺地域歴史探訪マップ」や「ひとくら・知明湖周辺自然散策マップ」などを作成して、観光客などに広く PR を行っている。

また、ダム湖の周辺は「県立一庫公園」をはじめとし、豊かな自然環境を活用した公園や施設が充実し、散策や、ハイキング、自然探勝など、多様な楽しみ方ができる場となっている。また、地域住民の居住地からも近いことから、日常の散策などの場としても利用されている。

図 7.2-5　ダム周辺地域の観光施設等
(出典：水源地域ビジョン推進協議会パンフ(2018年2月))

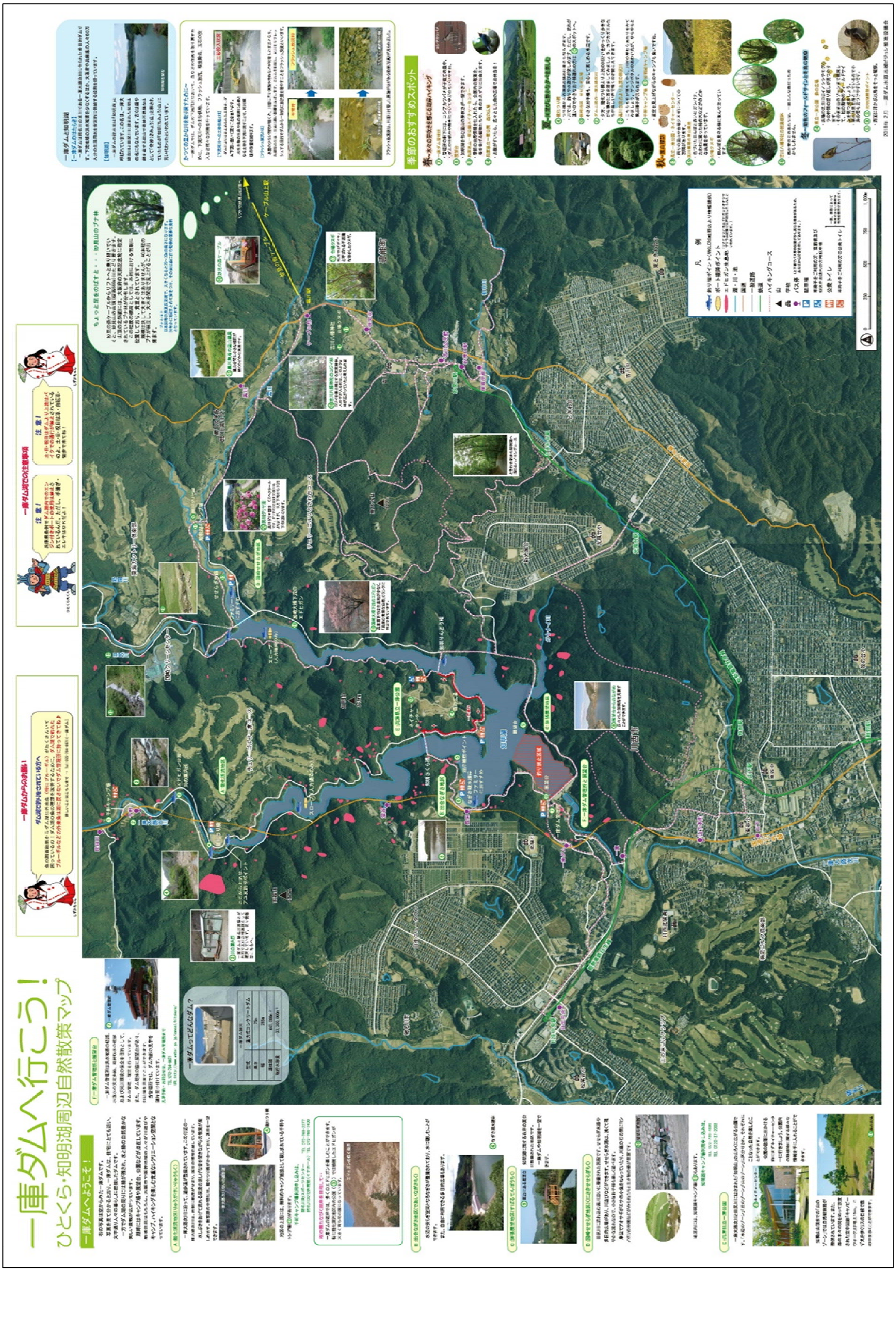


図 7.2-6　ダム湖周辺の観光施設等
（出典：水源地域ビジョン推進協議会パンフ（2018 年 2 月））

7.3. ダム事業と地域社会情勢の変遷

一庫ダム事業に関わる地域社会の情勢と変化を年表(表 7.3-1)に整理した。

表 7.3-1(1) ダム事業と地域社会の変化(年表)

年代	一庫ダム事業とインフラ整備事業	住民活動・交流活動・地域の出来事	その他
S43	6 月 淀川水系水資源開発基本計画の変更(一庫ダム追加) 8 月 一庫ダム調査所発足 10 月 一庫ダム事業実施方針の指示		
S44	6 月 一庫ダム建設所設置		
S45		7 月 一庫ダム建設事業に関する協定調印(川西市地区)	
S49	7 月 水源地域対策特別措置に基づくダムに指定		
S50		8 月「一庫ダム建設に伴う損失補償基準」妥結・調印(川西市地区・東の能勢村地区)	
S52	5 月 一庫ダム本体工事に着手		
S53	4 月 一庫ダム事業実施方針の変更		
S54	3 月 一庫ダム本体のコンクリート打設開始		
	10 月 一庫ダム定礎式		
S56	10 月 一庫ダム本体のコンクリート打設完了	自然休養村管理センター竣工(能勢町)	
	11 月 試験湛水開始	国道 173 号(一庫～民田間)開通	
	12 月 周辺環境整備工事着手		
S57	4 月 一庫ダム竣功式	4 月 一庫ダムが川西市に完成	
S58	4 月 管理開始(一庫ダム管理所開設) 5 月 試験湛水終了		9 月 台風 10 号による下流の浸水被害発生
H1			9 月 前線豪雨による下流の浸水被害発生
H2	6 月 ダム湖活用促進事業のダムに指定		
H3		能勢町全域を都市計画区域に指定 市民温水プールがオープン(川西市) 11 月 「川西りんどう祭」を初めて開催(川西市)	
H5		ふるさと会館、B&G 海洋センター、交流促進施設オープン(能勢町)	
H6			列島渇水により最大で上水 30%,農水 40%の取水制限
H7			1 月 阪神・淡路大震災発生
H9			豊能郡美化センターにおいてダイオキシン問題発生
H10	7 月 県立一庫公園が一部オープン	7 月 県立一庫公園が一部オープン	
H11		保健福祉センターオープン(能勢町) 能勢の浄瑠璃が国の無形民俗文化財に選択(能勢町)	6 月 前線豪雨による下流の浸水被害発生
H12	4 月 施設管理方針の変更 (洪水調節ルールの変更)	観光物産センターオープン(能勢町)	渇水により取水制限
H13			渇水により取水制限
H14		能勢浄化センター稼動(能勢町) 緑の基本計画発表(川西市)	渇水により最大で上水 40%,農水 40%の取水制限 公共下水道供用開始(能勢町)

表 7.3-1(2)　ダム事業と地域社会の変化(年表)

年代	一庫ダム事業と インフラ整備事業	住民活動・交流活動・ 地域の出来事	その他
H15	一庫ダム水源地域ビジョン策定 下流河川改善の取り組み（フラッシュ放流＋土砂還元）を開始	歴史街道モデル地区に認定(川西市)	
H16		川西市市制施行 50 周年(川西市) 水道通水 50 周年記念式典挙行(川西市)	渇水により 10%の取水制限
H17	9 月　黒川ダリヤ園がオープン(川西市) ダム池内の外来魚対策の開始	9 月　黒川ダリヤ園がオープン(川西市) 川を耕し隊(アユの産卵床造成活動)の開始	ダム湖百選に選定される（(財)ダム水源池環境整備センター　3 月）
H18	弾力的管理試験（洪水調節容量内の一部を下流河川環境改善に活用）を開始 浅層曝気装置を２基、試運転開始	能勢町町制施行 50 周年(能勢町) のじぎく兵庫国体弓道協議を開催。(川西市:川西市で初の全国規模のスポーツ大会)	
H19		4 月　歴史街道・多田銀銅山悠久の館完成(猪名川町)	
H20		3 月　北野バイパス開通(猪名川町)	
H21	3 月　国崎クリーンセンター完成	3 月　国崎クリーンセンター完成	
H22		4 月　第 5 次町総合計画策定(猪名川町) 10 月　参画と協働のまちづくり推進条例施行(川西市)	
H23	深層・浅層併用曝気装置２基及び浅層曝気装置４基運用開始		3 月　東日本大震災発生
H24		3 月　第 5 次総合計画策定(能勢町) 第 2 次能勢町環境基本計画策定	
H25		第 5 次川西市総合計画策定	
H26			渇水により 10%の取水制限
H27			
H28			
H29			
H30	7 月　西日本豪雨により管理開始以降最大となる流入量 630 ㎥/s を記録		6 月 大阪府北部地震発生(震度 5 弱) 7 月 西日本豪雨 豪雨により流域最大 24 時間雨量を更新 北海道地震（震度 7）

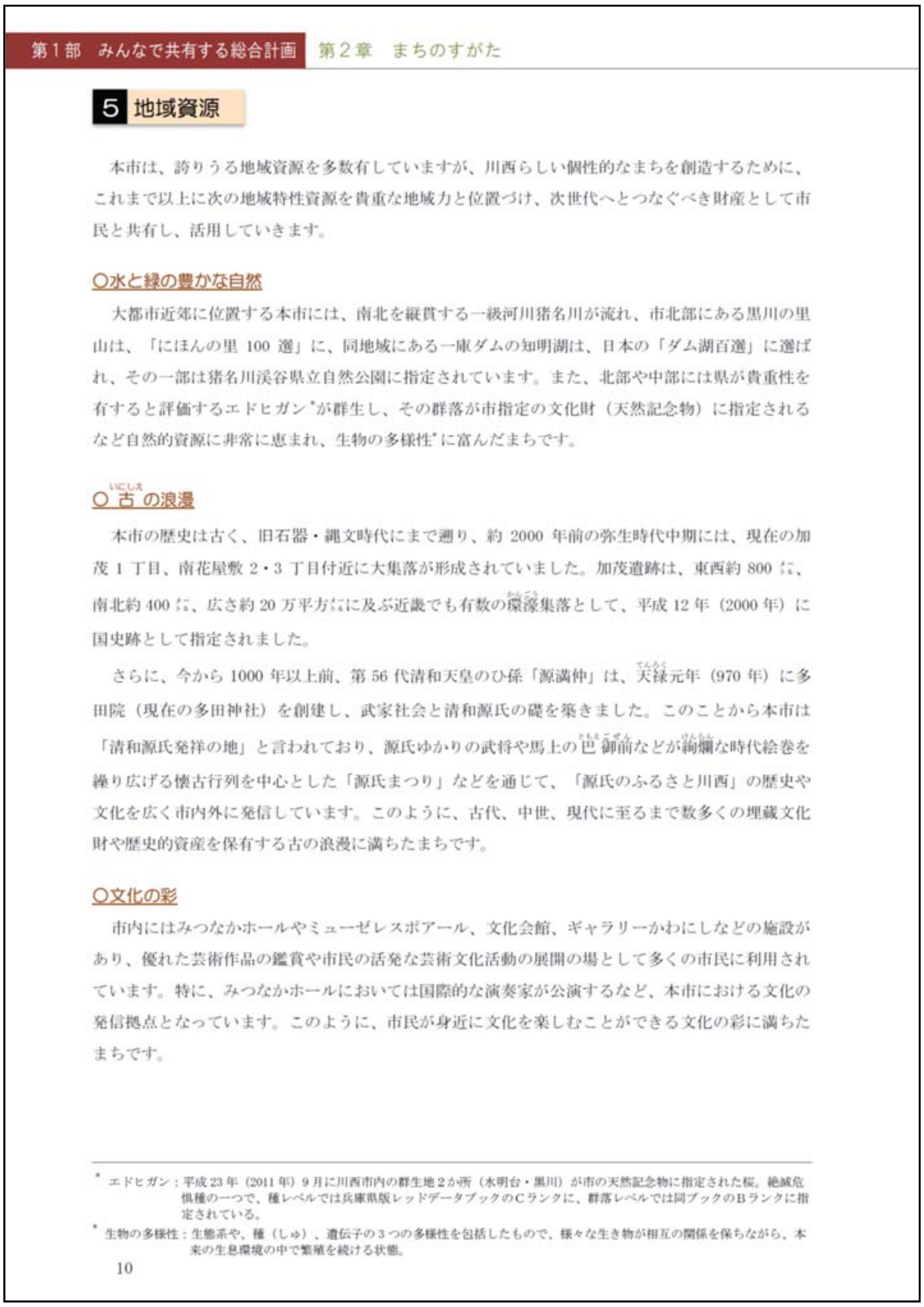
(出典:「一庫ダム工事誌」(昭和59年3月、水資源開発公団一庫ダム建設所)、
一庫ダム管理所ホームページ http://www.water.go.jp/kansai/hitokura/、
川西市公式WEBサイト http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/、
能勢町役場ホームページ http://www.town.nose.osaka.jp/、
猪名川町ホームページ http://www.town.inagawa.hyogo.jp/index.html)

7.4. ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1. 地域におけるダムの位置づけに関する整理

(1) 川西市第 5 次総合計画

一庫ダム及びダム湖のほとんどの部分が属す兵庫県川西市では、市の第 5 次総合計画の中で、一庫ダムを「地域資源」として、以降に示すように「貴重な地域力」として位置づけている。今後も、一庫ダム及び周辺は、次世代へとつなぐべき財産として市民と共有し、活用していくこととしている。


第1部　みんなで共有する総合計画　第２章　まちのすがた

5 地域資源

本市は、誇りうる地域資源を多数有していますが、川西らしい個性的なまちを創造するために、これまで以上に次の地域特性資源を貴重な地域力と位置づけ、次世代へとつなぐべき財産として市民と共有し、活用していきます。

○水と緑の豊かな自然

大都市近郊に位置する本市には、南北を縦貫する一級河川猪名川が流れ、市北部にある黒川の里山は、「にほんの里 100 選」に、同地域にある一庫ダムの知明湖は、日本の「ダム湖百選」に選ばれ、その一部は猪名川渓谷県立自然公園に指定されています。また、北部や中部には県が貴重性を有すると評価するエドヒガン*が群生し、その群落が市指定の文化財（天然記念物）に指定されるなど自然的資源に非常に恵まれ、生物の多様性*に富んだまちです。

○古（いにしえ）の浪漫

本市の歴史は古く、旧石器・縄文時代にまで遡り、約 2000 年前の弥生時代中期には、現在の加茂 1 丁目、南花屋敷 2・3 丁目付近に大集落が形成されていました。加茂遺跡は、東西約 800 ㍍、南北約 400 ㍍、広さ約 20 万平方㍍に及ぶ近畿でも有数の環濠（かんごう）集落として、平成 12 年（2000 年）に国史跡として指定されました。

さらに、今から 1000 年以上前、第 56 代清和天皇のひ孫「源満仲」は、天禄（てんろく）元年（970 年）に多田院（現在の多田神社）を創建し、武家社会と清和源氏の礎を築きました。このことから本市は「清和源氏発祥の地」と言われており、源氏ゆかりの武将や馬上の巴御前（ともえごぜん）などが絢爛（けんらん）な時代絵巻を繰り広げる懐古行列を中心とした「源氏まつり」などを通じて、「源氏のふるさと川西」の歴史や文化を広く市内外に発信しています。このように、古代、中世、現代に至るまで数多くの埋蔵文化財や歴史的資産を保有する古の浪漫に満ちたまちです。

○文化の彩

市内にはみつなかホールやミューゼレスポアール、文化会館、ギャラリーかわにしなどの施設があり、優れた芸術作品の鑑賞や市民の活発な芸術文化活動の展開の場として多くの市民に利用されています。特に、みつなかホールにおいては国際的な演奏家が公演するなど、本市における文化の発信拠点となっています。このように、市民が身近に文化を楽しむことができる文化の彩に満ちたまちです。

* エドヒガン：平成 23 年（2011 年）9 月に川西市内の群生地 2 か所（水明台・黒川）が市の天然記念物に指定された桜。絶滅危惧種の一つで、種レベルでは兵庫県版レッドデータブックのＣランクに、群落レベルでは同ブックのＢランクに指定されている。

* 生物の多様性：生態系や、種（しゅ）、遺伝子の 3 つの多様性を包括したもので、様々な生き物が相互の関係を保ちながら、本来の生息環境の中で繁殖を続ける状態。

10

図 7.4-1　川西市第 5 次総合計画の基本構想における一庫ダムの位置づけ

(出典:「川西市第5次総合計画(平成25年～平成34年)」第1部　第2章まちのすがた)

(2) 川西市緑の基本計画

快適な生活環境に欠かすことのできない「緑」の将来の総合的なあり方を定める「緑の基本計画」は、川西市の将来の都市像と整合を図りつつ、緑あふれる安全な都市の形成を念頭におき、樹林地の保全、都市公園の整備、公共施設や民間施設を対象とする都市緑化の推進、緑化活動への市民参加の促進などを行おうとするもので、平成 33 年(令和 3 年)を目標年次とする長期的な計画である。

この計画の中では、知明湖周辺の緑(環境)を活用した、レクリエーション施設、ハイキングコースの整備、利用促進など、施策体系の一施策として体系づけられ、地域の「水に親しむレクリエーションゾーン」としての機能を期待されている。

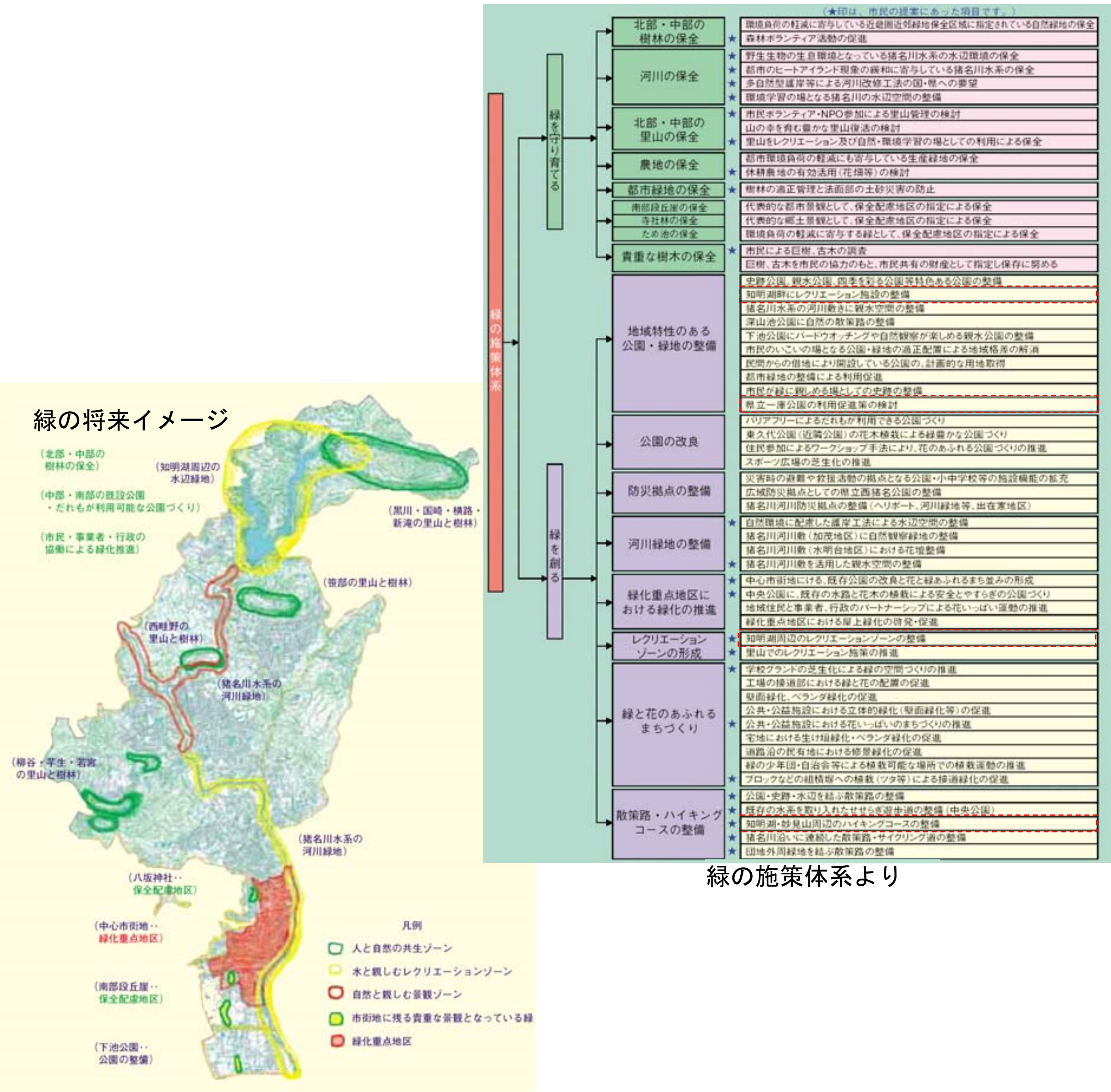


図 7.4-2 川西市第 4 次総合計画の後期基本計画における一庫ダムの位置づけ

(出典:「川西市　緑の基本計画」(平成14年3月策定、川西市))

(3) 水源地域ビジョン

一庫ダムでは、水源地域の自治体、住民とダム管理者、関係行政機関、並びにこの地域に精通した学識経験者等と広く連携し、平成 15 年 4 月に水源地域の活性化のための行動計画である「一庫ダム水源地域ビジョン」を策定し、それに基づいて活動を推進している。ビジョン実行組織として「実行連絡会」を毎年開催し、関係者相互の連絡、調整を図りながら様々な取組みを進めている。

一庫ダムの水源地域ビジョンの概要を図 7.4-3 に、具体的方策の一覧を表 7.4-1 に示す。

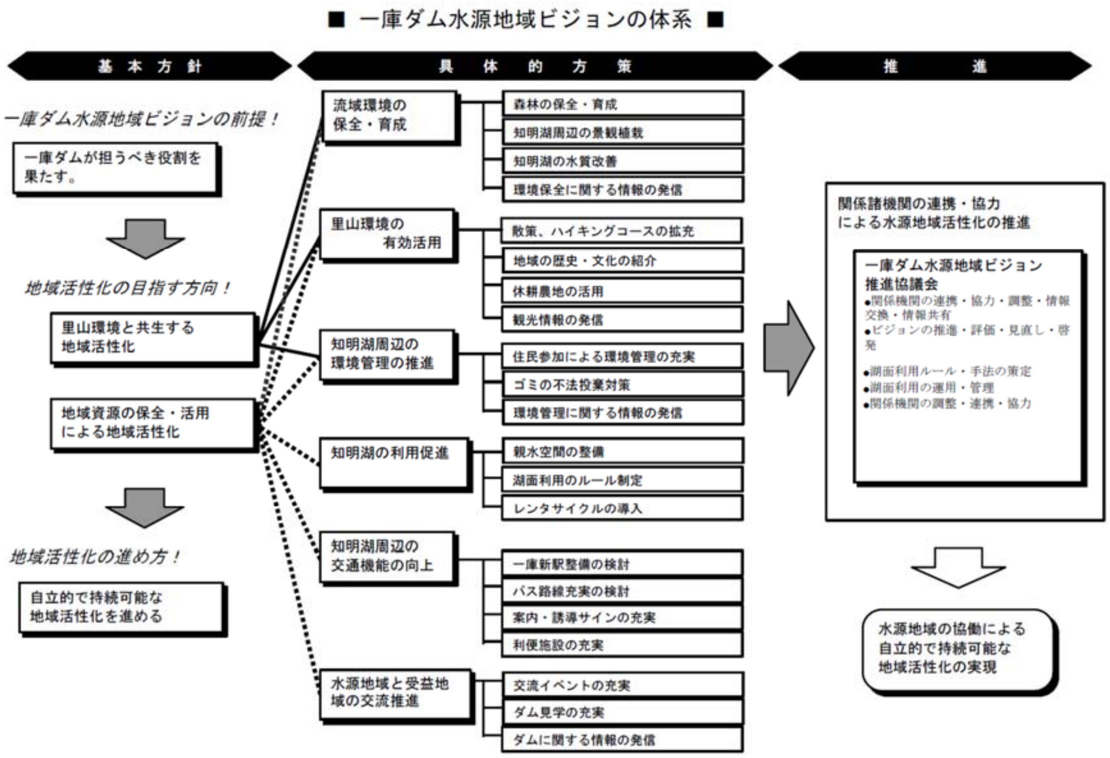


図 7.4-3 一庫ダム水源地域ビジョンの概要

(出典: 平成29年度一庫ダム年次報告書(平成31年2月))

表 7.4-1 一庫ダム水源地域ビジョンの具体的方策一覧

内容		実施主体 主体	実施主体 協力・支援	実施時期
流域環境の保全・育成	森林の保全・育成	自治体	森林所有者 民間団体 地域住民　等	短期・中期・長期
	知明湖周辺の景観植栽	自治体 施設管理者	地域住民 民間団体 ダム管理者	継続・短期
	知明湖の水質改善	ダム管理者 河川管理者	関係行政機関	継続、中期
	環境保全に関する情報の発信	自治体 ダム管理者	関係行政機関 関係団体　等	継続・短期
里山環境の有効活用	散策、ハイキングコースの拡充	自治体	関係団体 関係行政機関 ダム管理者　等	継続・短期
	地域の歴史・文化の紹介	一庫公園 自治体	地域住民 関係団体 関係行政機関 ダム管理者　等	継続、長期
	休耕農地の活用	農地所有者 地域住民 関係機関	自治体	短期・中期・長期
	観光情報の発信	関係する様々な機関		継続・短期
知明湖周辺の環境管理の推進	住民参加による環境管理の充実	民間団体 地域住民等	自治体 ダム管理者 関係行政機関 等	継続・短期・中期
	ゴミの不法投棄対策	自治体 ダム管理者	地域住民 関係機関	継続・短期・中期
	環境管理に関する情報の発信	自治体 ダム管理者	地域住民 関係機関	継続・短期・中期
知明湖の利用促進	親水空間の整備	河川管理者	自治体 ダム管理者 関係行政機関 等	継続・短期
	湖面利用のルール制定	ダム管理者 自治体 関係団体 関係行政機関		短期
	レンタサイクルの導入	自治体 関係団体	ダム管理者 関係行政機関 等	中期
知明湖周辺の交通機能の向上	一庫新駅整備の検討	自治体	交通機関 地域住民 関係行政機関 等	長期
	バス路線充実の検討	交通機関 自治体	関係行政機関 地域住民　等	長期
	案内・誘導サインの充実	河川管理者	自治体 ダム管理者 関係行政機関 等	継続・短期
	利便施設の充実	河川管理者	自治体 ダム管理者 関係行政機関 等	継続・短期
水源地域と受益地域の交流推進	交流イベントの充実	既存イベントの主催者	関係する諸機関 地域住民	継続・短期
	ダム見学の充実	自治体 関係行政機関等	ダム管理者	継続・短期
	ダムに関する情報の発信	自治体 関係行政機関等	ダム管理者	継続、中期

(出典: 平成29年度一庫ダム年次報告書)

(4) ダム湖周辺の利用状況（地区別利用者数）

一庫ダム湖活用環境整備事業は、一庫ダムの有する資源性の活用により、野外レクリエーションの場を創出するとともに、水源地域の活性化等を目的として、平成 2 年度にレイクリゾート事業として着手した。国崎地区、龍化地区、出合地区、洲張地区の 4 地区（図 7.4-4）で、図 7.4-5 のようなキャンプ場や親水施設、多目的広場、展望台、遊歩道、吊り橋等、野外活動のための施設整備等が進められた。整備された 4 地区は、整備以前は立ち入り出来ない、あるいはレクリエーション利用がほとんどできない状況だったが、整備後は、散策や野外活動の拠点等としての利用が可能となり、図 7.4-6 および図 7.4-7 に示すように、多くの人に利用されている。

図 7.4-4 一庫ダム湖活用環境整備事業における整備地区

図 7.4-5 各地区の整備状況

（出典： 一庫ダム湖活用環境整備事業 事後評価書(案)概要版）

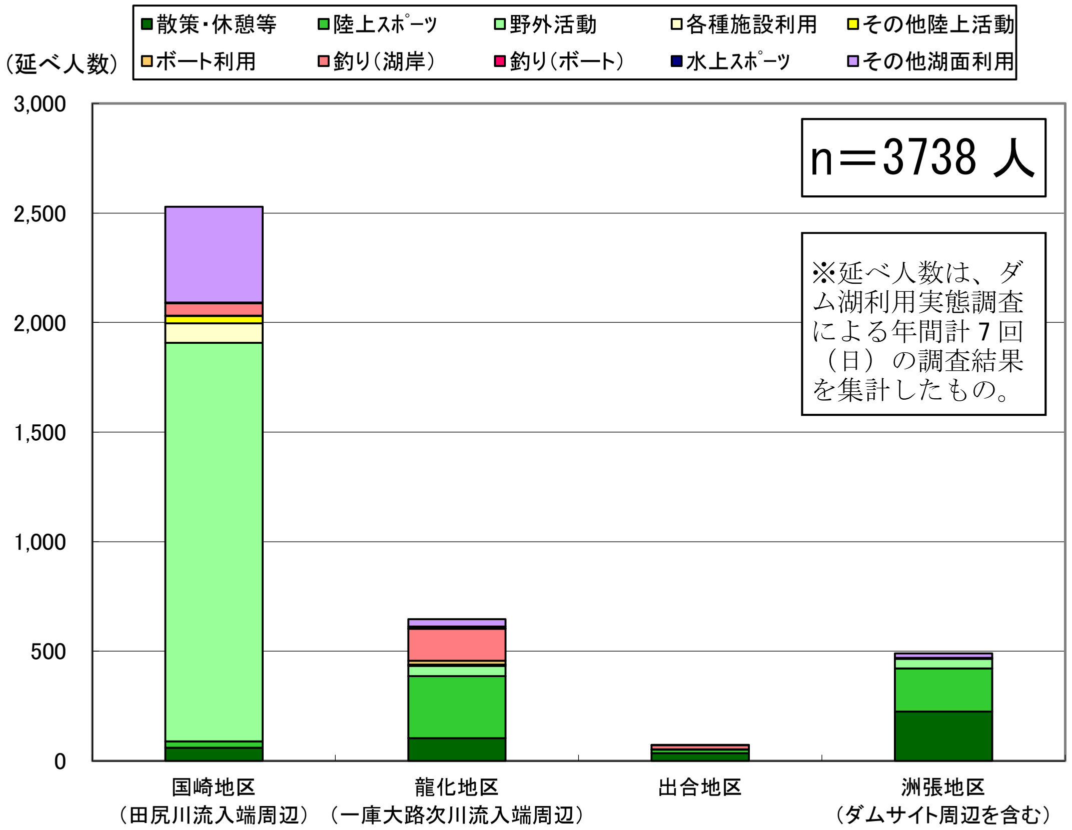


図 7.4-6　整備地区における利用形態別の利用状況（平成 26 年）
（出典：平成 26 年度河川水辺の国勢調査結果[ダム湖版]（ダム湖利用実態調査、平成 28 年 2 月発行））

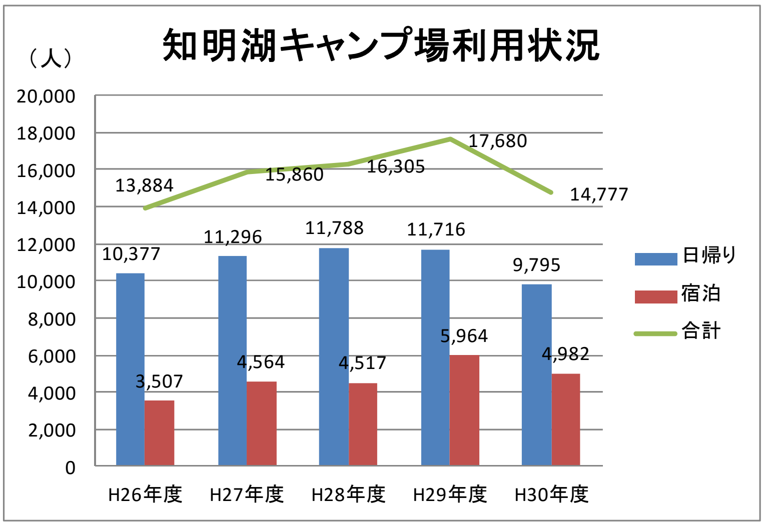


図 7.4-7　知明湖キャンプ場（国崎地区）利用状況（平成 26 年～30 年）

(5) 能勢町環境基本計画

大阪府の能勢町は、一庫ダムの水源地域のほとんどを含み、「日本一の里山の町」として、里山文化をまちづくりの骨子とする町である。

「第２次能勢町環境基本計画(平成 24 年 3 月)」には、能勢町の第 5 次総合計画に掲げられた里地里山保全のより具体的な考え方が記載されている（図 7.4-8 参照)。

里山の保全については、里山景観の保全に関する方針の策定に努めること、里山管理リーダーをはじめとする関係者や関係機関と連携を取り、支援を行うことが示されている。

【施策体系】

（1）多様な自然環境（農地・里山含む）の保全・活用

能勢町の自然という財産、そこから創られた「里山」、その里山を形成する一つの資源である森林、森林が産み出した肥沃な土地、これら全てが私たちの日々の生活に深く関わってきました。また、農林業は資源循環能力が高く、ごみの減量にも適した資源循環機能を有しています。

再度、この有効な資源を活用するには、まず森林整備が必要になります。整備することで、里山景観の保全・復旧につながり、また、鳥獣管理にも役立ちます。

自然環境を活かし、そして守ることが、多方面での好影響につながります。

〔主な施策〕

① 水土保全・資源循環の取り組み
- 森林計画※に基づき、森林整備を重点的に実施します。
- 保安林の整備・保全に努めます。

② 野生動物の分布・生息・生育状況の把握
- 野生動植物の保護・保全及び有害鳥獣の駆除に関する人材の養成等を図り、分布・生息状況等を適切に把握することに努めます。

③ 自然観察会、自然レクリエーションなどの充実
- 自然をテーマにした各種活動の情報提供など支援を行ないます。

④ 里山の保全・管理
- 里山景観の保全に関する方針の策定に努めます。
- 里山管理リーダーをはじめとする関係者や関係機関と連携を取り、支援を行うなど、里山の景観保全、復旧を行ないます。

⑤ 環境に配慮した農林業の啓発
- 減農薬、減化学肥料、有機農法など、環境に配慮した農業の啓発に努めます。

⑥ 農業者と消費者との交流による農業振興と農地の活用
- 観光物産センターをはじめとする直売所と連携し、栗等の農林産物の販売や特産品の開発により、農林産物をＰＲします。
- 都市住民との交流事業、貸し農園等の多目的利用を図り、農業を通じた町内外の生産者・消費者の交流を促進します。

⑦ 学校での地域活動、生涯学習を通じた環境教育
- 次代の能勢町を担う子どもたちに、自然の持つ力の偉大さを伝え、自然からの恩恵を認識し、未来へと引き継いでいけるよう、環境教育への参加を推進します。
- 能勢町内とその他の地域の子どもたちが、異なる生活環境での体験を目的に実施する学校間交流などを支援します。

⑧ 林道整備の取り組み
- 林業の振興やレクレーション、森林浴などに活用できるよう林道の整備に努めます。

図 7.4-8　能勢町環境基本計画

（出典:「第2次能勢町環境基本計画（平成24年3月、能勢町）」4.施策の展開）

7.4.2. 一庫ダムと地域との関わりに関する評価

一庫ダム及びダム湖が位置する兵庫県川西市では、一庫ダム周辺を「貴重な地域力」として位置づけており、次世代へとつなぐべき財産として市民と共有し、活用していくこととしている。

また、「川西市緑の基本計画」においても、知明湖周辺の緑(環境)を活用した、レクリエーション施設、ハイキングコースの整備、利用促進など、施策体系の一施策として体系づけられ、地域の「水に親しむレクリエーションゾーン」としての機能を期待されている。

一方、水源地域となる大阪府能勢町では、不断の努力により豊かな自然環境が多く守られてきたものの、様々な理由により荒廃が進みつつある現状に言及し、自然環境保護の担い手を支える将来的な対応を模索していく考え方を示している。

一庫ダムは豊かな自然と、広大な水面を活用し、レガッタ大会やマラソン大会など、地域のイベント、交流活動の場としても機能し、ダム管理者も地域に向けた様々な活動により、一庫ダム及びダム周辺の豊かな自然を活動の場として提供するとともに、地元と連携したイベントにおけるダム見学等を通じてダムに関する情報を発信している。

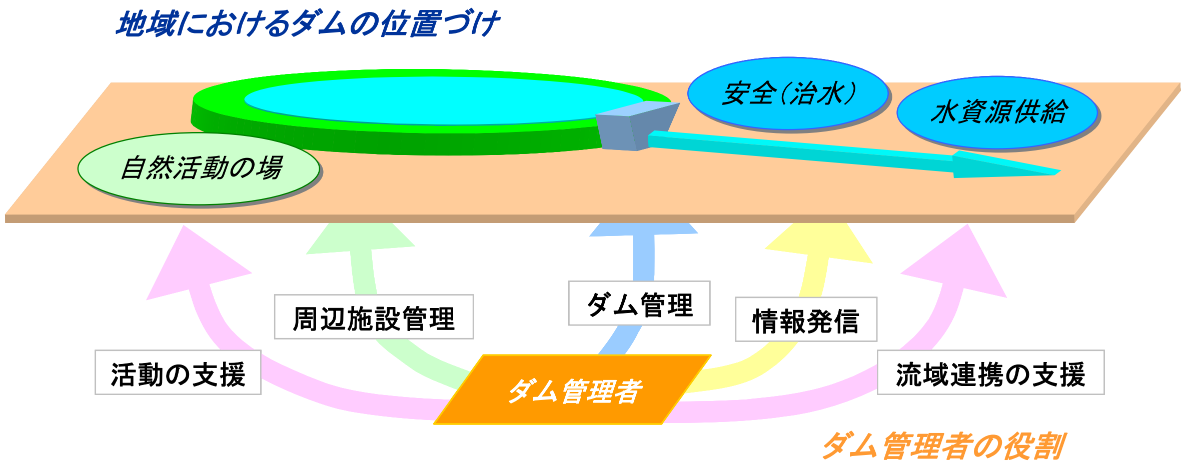


図 7.4-9　地域におけるダムの位置づけ

7.4.3. ダム施設見学者の状況

一庫ダムの施設見学者数の推移を図 7.4-10 に示す。ここで示す図は、ダム及びダム周辺に訪問する利用者数を反映する「ダム湖利用実態調査結果（項目 7.5)」とは異なる。

平成 16 年度～30 年度までの年平均施設見学者数は 1,208 人、平成 26 年度～30 年度までの年平均見学者数は 1,184 人であった。

平成 30 年度までの累計見学者数は、18,486 人となっている。

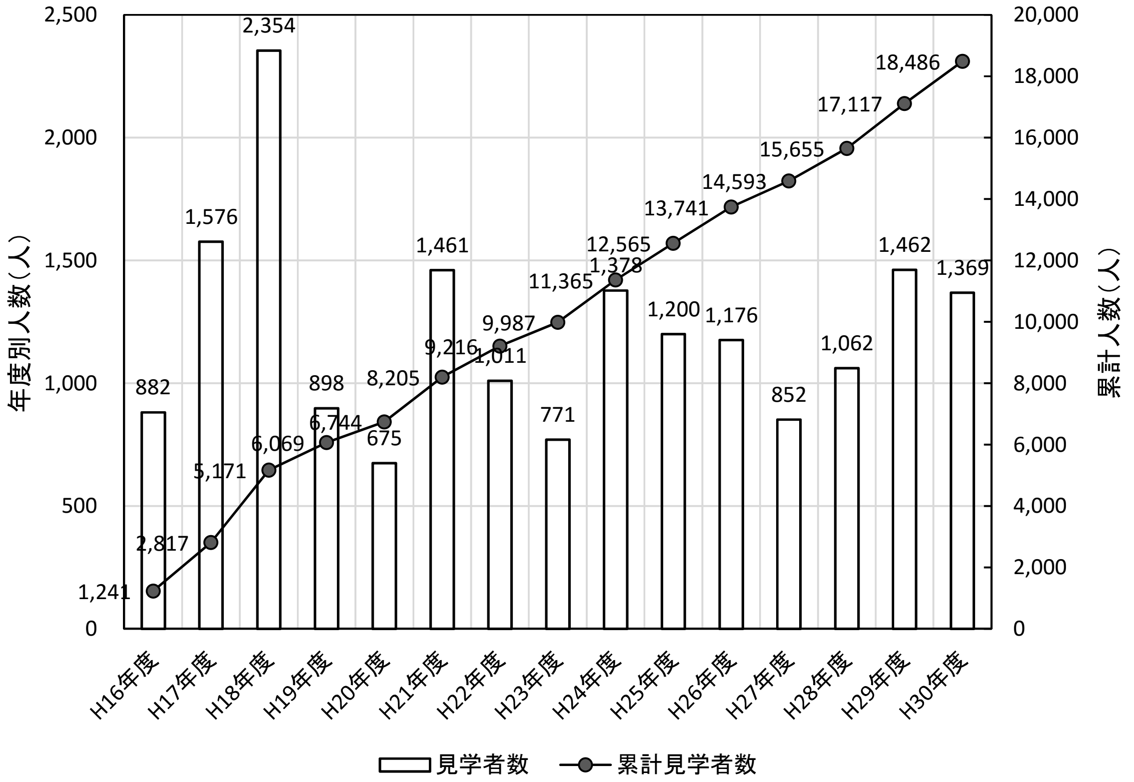


図 7.4-10　一庫ダムの見学者数の推移

（出典:管理年報）

7.4.4. ダム及び周辺での活動状況

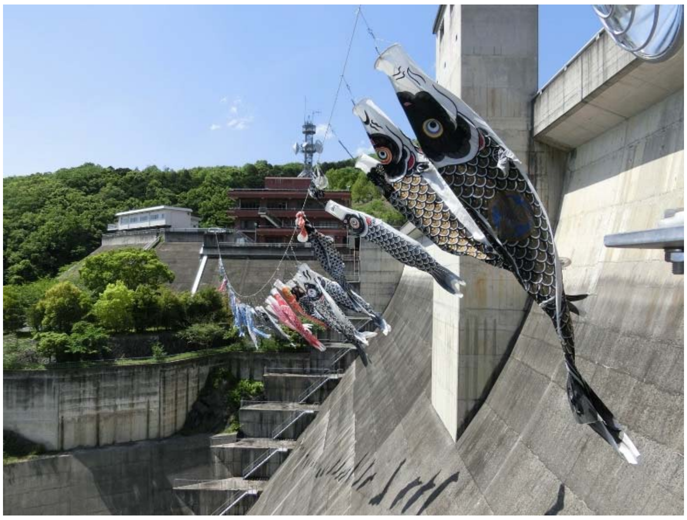
一庫ダム周辺では、「川西一庫周遊マラソン大会」や「猪名川クリーン作戦」などのほか、地域が主体となった様々な活動やイベントが行われている。

一庫ダム周辺で実施されたイベントについて、表 7.4-9～表 7.4-13 に示す。

(1) 主催イベント等

表 7.4-2 主催イベント等の開催状況(鯉のぼり)

開催期間	行事等名	行事内容
平成 26 年 4 月 18 日～5 月 16 日	新緑の中、泳ぐ鯉のぼり	毎年 4 月下旬～5 月上旬に、地域住民から寄贈された鯉のぼり約 100 匹をダムサイト下流へ右岸と左岸に渡して設置。平成 18 年から毎年実施している。 ＧＷ中は利水補助バルブからの放流を行う。
平成 27 年 4 月 22 日～5 月 15 日	新緑の中、泳ぐ鯉のぼり	
平成 28 年 4 月 22 日～5 月 15 日	新緑の中、泳ぐ鯉のぼり	
平成 29 年 4 月 21 日～5 月 15 日	新緑の中、泳ぐ鯉のぼり	
平成 30 年 4 月 26 日～5 月 15 日	新緑の中、泳ぐ鯉のぼり	



新緑の中、泳ぐ鯉のぼり（平成30年）

表 7.4-3 主催イベント等の開催状況(流木ペインティング大会)

開催期間	行事等名	主催	参加者	行事内容
平成 26 年 7 月 27 日	流木ペインティング大会	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会主催	大人子ども含めて約 60 名	毎年7月～8月頃に開催。廃棄物の減量と資源の有効利用を啓発するために貯水池内に流れ込んできた流木に着色するイベントを開催している。
平成 27 年 8 月 1 日	流木ペインティング大会	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会主催	大人子ども含めて約 40 名	
平成 28 年 7 月 31 日	流木ペインティング大会	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会主催	大人子ども含めて約 40 名	
平成 29 年 8 月 6 日	流木ペインティング大会	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会主催	大人子ども含めて約 40 名	
平成 30 年 8 月 5 日	流木ペインティング大会	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会主催	大人子ども含めて約 10 名	

流木ペインティング大会（平成 30 年 8 月 5 日）

表 7.4-4　主催イベント等の開催状況(川を耕し隊)

開催期間	場所	主催	内容
平成 26 年 10 月 29 日	一庫大路次川	一庫ダム・猪名川漁協協同組合	毎年 10 月に、河床を鍬等で耕すことにより、河床材料に適度な隙間を作ることによりアユ等の産卵環境を改善させる。
平成 27 年 10 月 5～6 日	一庫大路地川 田尻川	一庫ダム・猪名川漁協協同組合	
平成 28 年	中止	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会	
平成 29 年 10 月 4～5 日	田尻川	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会	
平成 30 年 10 月 5 日	田尻川	一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会	

川を耕し隊（平成30年 10月5日）

表 7.4-5　主催イベント等の開催状況(クラフト)

開催期間	行事等名	参加者	行事内容
平成 26 年 12 月 7 日	なんでもクラフト大作戦Ⅱ	大人子ども含めて約 30 名	知明湖周辺に繁茂するクズを利用してリースや籠等を作成することを通じて、知明湖周辺の生物多様性や里山環境保全の啓発、後進の育成等のためにイベントを開催。 平成 26 年度までは、「なんでもクラフト大作戦Ⅱ」として開催。
平成 27 年 10 月 24 日	里山素材でクラフト	大人子ども含めて約 20 名	
平成 28 年 10 月 29 日	里山素材でクラフト	大人子ども含めて約 30 名	
平成 29 年	荒天に伴い中止		
平成 30 年 10 月 21 日	里山素材でクラフト	大人子ども含めて約 30 名	

里山素材でクラフト（平成 30 年 10 月 21 日）

(2) 共催イベント等

表 7.4-6　共催イベント等の開催状況(夏でもひ～んやり！一庫ダム内見学)

開催期間	行事等名	主催	参加者	行事内容
平成 26 年 8 月 10 日～11 日	夏でもひ～んやり！（一庫ダム内見学)	能勢電鉄株式会社主催（一庫ダム共催)	約 300 名	地域活性化、ダムを含む地域の広報を目的として、一庫ダム見学と説明会を開催した。
平成 27 年 8 月 22 日～23 日	夏でもひ～んやり！（一庫ダム内見学)	能勢電鉄株式会社主催（一庫ダム共催)	約 230 名	
平成 28 年 8 月 20 日	夏でもひ～んやり！（一庫ダム内見学)	能勢電鉄株式会社主催（一庫ダム共催)	約 150 名	
平成 27 年 8 月 26 日	夏でもひ～んやり！（一庫ダム内見学)	能勢電鉄株式会社主催（一庫ダム共催)	約 160 名	
平成 30 年 8 月 25 日	夏でもひ～んやり！（一庫ダム内見学)	能勢電鉄株式会社主催（一庫ダム共催)	約 190 名	

夏でもひ～んやり！（一庫ダム内見学)（平成30年8月25日）

表 7.4-7　共催イベント等の開催状況(稚アユ放流体験)

開催期間	行事等名	場所	参加者	行事内容
平成 26 年 6 月 8 日	稚アユ放流体験	一庫橋下流	約 50 名	アユの放流を一般の子供たちに体験してもらうことで、河川生物に対する意識向上を図る。
平成 27 年 5 月 17 日	稚アユ放流体験	一庫橋下流	約 30 名	
平成 28 年 6 月 5 日	稚アユ放流体験	一庫橋下流	約 40 名	
平成 29 年 6 月 11 日	稚アユ放流体験	一庫橋下流	約 50 名	
平成 30 年 6 月 10 日	稚アユ放流体験	一庫橋下流	約 60 名	

稚アユ放流体験（平成30年 6月10日）

表 7.4-8　共催イベント等の開催状況(フィッシングショーOSAKA)

開催期間	行事等名	参加者	行事内容
平成 27 年	参加なし		ダム下流河川環境復元へ向けての取り組み等についての広報と一般の方々からの意見を聞く場としてブースを出展した。
平成 28 年 2 月 5 日～7 日	フィッシングショー OSAKA2016	約 400 名	
平成 29 年 2 月 3 日～5 日	フィッシングショー OSAKA2017	約 400 名	
平成 30 年 2 月 2 日～4 日	フィッシングショー OSAKA2018	約 700 名	
平成 31 年 2 月 2 日～3 日	フィッシングショー OSAKA2019	約 600 名	

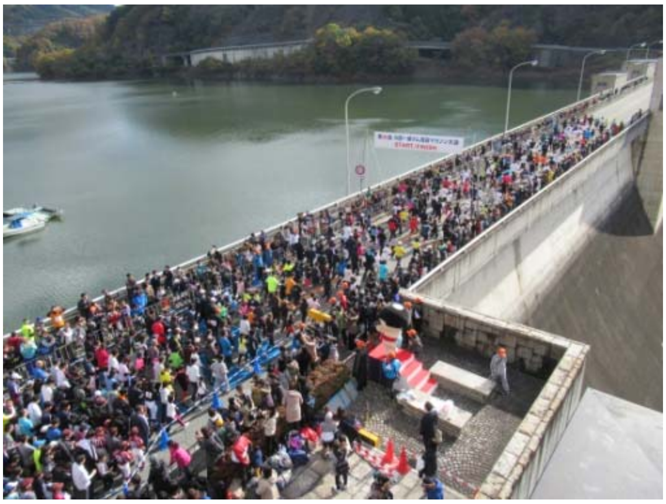
※参加者数はアンケート集計数より推計

フィッシングショーOSAKA2019（平成 31 年 2 月 2 日～3 日）

(3) 地域活性化に向けた取り組みに関するイベント（地域イベント）等

表 7.4-9 地域イベント等の開催状況(川西一庫ダム周遊マラソン大会)

開催期間	行事等名	開催場所	参加者	行事内容
平成 26 年 11 月 16 日	川西一庫ダム周遊マラソン大会	川西市 一庫ダム	約 3,000 名	川西一庫ダム周遊マラソン大会実行委員会の主催（一庫ダムは後援)。川西市の代表的なイベントであり、平成 30 年で 37 回目となる。
平成 27 年 11 月 15 日	川西一庫ダム周遊マラソン大会	川西市 一庫ダム	約 3,000 名	
平成 28 年 11 月 20 日	川西一庫ダム周遊マラソン大会	川西市 一庫ダム	約 2,700 名	
平成 29 年 11 月 19 日	川西一庫ダム周遊マラソン大会	川西市 一庫ダム	約 2,500 名	
平成 30 年 11 月 18 日	川西一庫ダム周遊マラソン大会	川西市 一庫ダム	約 2,200 名	



川西一庫ダム周遊マラソン大会（平成 30 年 11 月 18 日）

表 7.4-10　地域イベント等の開催状況(黒川里山まつり)

開催期間	行事等名	主催	参加者	行事内容
平成 26 年	荒天に伴い中止			日本一の里山と言われ、クヌギ林中心の里山であり、菊炭(一庫炭)生産地である川西市黒川地区のイベント。黒川地区の工芸品や食材の販売、木工教室等、自然と人との交流活性化を図るため開催。
平成 27 年 11 月 1 日	黒川里山まつり	黒川里山まつり実行委員会 (一庫ダム支援)	約 2500 名	
平成 28 年 11 月 6 日	黒川里山まつり	黒川里山まつり実行委員会 (一庫ダム支援)	約 4000 名	
平成 29 年	荒天に伴い中止			
平成 30 年 11 月 4 日	黒川里山まつり	黒川里山まつり実行委員会 (一庫ダム支援)	約 4000 名	

黒川里山まつり（平成30年11月4日）

(4) 水質保全の取り組みに関するイベント等

表 7.4-11 水質保全の取り組みに関するイベント等の開催状況(マス釣り＆浄化運動大会)

開催期間	行事等名	主催	参加者	行事内容
平成 26 年 4 月 24 日	2014 マス釣り＆猪名川浄化運動大会	猪名川漁業協同組合 (一庫ダム共催)	約 130 名	自然の大切さを学び、かつ参加者の交流図る目的で開催され、平成 30 年で 19 回目を迎えた。 釣り大会だけではなく浄化活動も併せて行い美化意識の向上にも力を入れている。
平成 27 年 4 月 25 日	2015 マス釣り＆猪名川浄化運動大会	猪名川漁業協同組合 (一庫ダム共催)	約 100 名	
平成 28 年 4 月 28 日	2016 マス釣り＆猪名川浄化運動大会	猪名川漁業協同組合 (一庫ダム共催)	約 120 名	
平成 29 年 4 月 30 日	2017 マス釣り＆猪名川浄化運動大会	猪名川漁業協同組合 (一庫ダム共催)	約 110 名	
平成 30 年 4 月 29 日	2018 マス釣り＆猪名川浄化運動大会	猪名川漁業協同組合 (一庫ダム共催)	約 150 名	

2018マス釣り＆猪名川浄化運動大会（平成30年 4月29日）

表 7.4-12　水質保全の取り組みに関するイベント等の開催状況(猪名川クリーン作戦)

開催期間	行事等名	主催	参加者	行事内容
平成 27 年 2 月 6 日	猪名川クリーン作戦	猪名川クリーン作戦実行委員会	約 1,700 名	猪名川流域を一斉清掃する猪名川クリーン作戦が毎年開催されている。
平成 28 年 2 月 6 日	猪名川クリーン作戦	猪名川クリーン作戦実行委員会	約 1,700 名	
平成 29 年 2 月 4 日	猪名川クリーン作戦	猪名川クリーン作戦実行委員会	約 1,700 名	
平成 30 年 2 月 17 日	猪名川クリーン作戦	猪名川クリーン作戦実行委員会	約 1,600 名	
平成 31 年 2 月 16 日	猪名川クリーン作戦	猪名川クリーン作戦実行委員会	約 1,300 名	

猪名川クリーン作戦（平成 31 年 2 月 16 日）

(5) 水源地との情報共有及び連携

表 7.4-13　一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会の実施状況

開催期間	行事等名	場所	行事内容
平成 26 年 9 月 29 日	一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会	一庫ダム管理所 説明ホール	一庫ダムで実施している川の環境改善に係るフラッシュ放流等の取り組みについて報告し、学識経験者や一般の方からのご意見をお聞きして今後に活かしていく。
平成 27 年 10 月 14 日	一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会	一庫ダム管理所 説明ホール	
平成 28 年 10 月 19 日	一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会	一庫ダム管理所 説明ホール	
平成 29 年 10 月 25 日	一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会	一庫ダム管理所 説明ホール	
平成 30 年 11 月 1 日	一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会	一庫ダム管理所 説明ホール	

一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会（平成30年11月1日）

7.4.5. ダム湖百選の選定

一庫ダムの「知明湖」は、ダム湖百選として選定されており、より一層地域に親しまれ、地域の活性化に役立つことが期待されている。

なお、ダム湖百選の選定は、平成 17 年に行われたものである。高さ 15m 以上のダムで、ダム湖の所在する市町長から推薦されたダムが審査対象とされ、（財)ダム水源地環境整備センター（現、一般財団法人　水源地環境センター）が運営する「ダム湖百選選定委員会」で審議のうえ選定された。

選定基準は、地域に親しまれ、また、地域にとってかけがえなのないダム湖であることであり、以下の項目が総合評価されている。

1.好ましい景観　2.生態系への配慮　　3.歴史的な価値　　4.人と自然とのふれあい

5.上下流の交流　　6.学習の場としての利用　　7.地域の人々の関心　　8.その他

図 7.4-11　ダム湖百選の選定

（出典:一般財団法人水源地環境センターHP　(http://www.wec.or.jp/library/100selection/content/chimyoko.html)

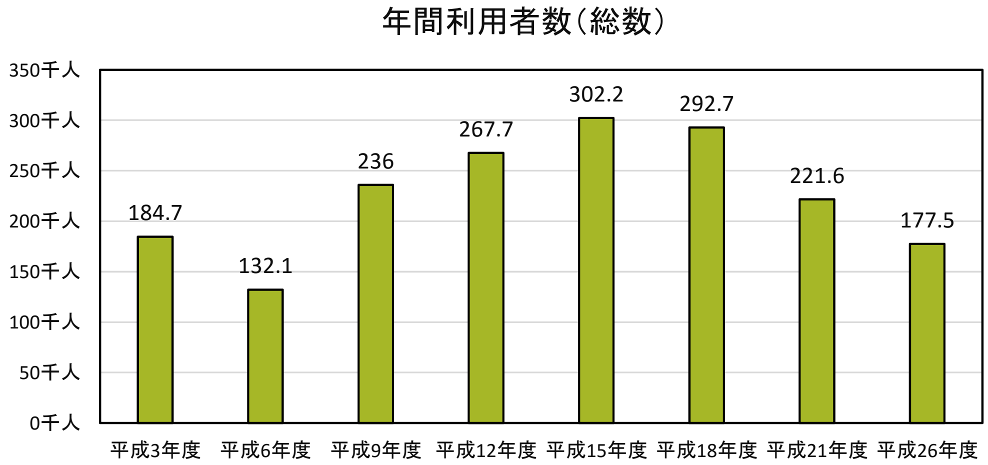
7.5. 河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果

(1) ダム湖利用実態調査

一庫ダムでは、平成 3 年度より「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」が実施されている。

「平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕<ダム湖利用実態調査編>(平成 28 年 2 月)」によると、平成 3 年度の年間利用者数の推計値は約 18.5 万人であり、平成 6 年度にやや減少するも、平成 15 年度の約 30 万人まで上昇傾向にあった。しかし、平成 18 年度以降、平成 26 年度にかけて減少傾向にある。

平成 12 年以降の主な利用形態は「散策」と「野外活動」であり、平成 26 年度は「散策」53.4%、「野外活動」が 20.7%であった。利用形態は、散策の割合が増加し、野外活動や釣りの割合が減少している。



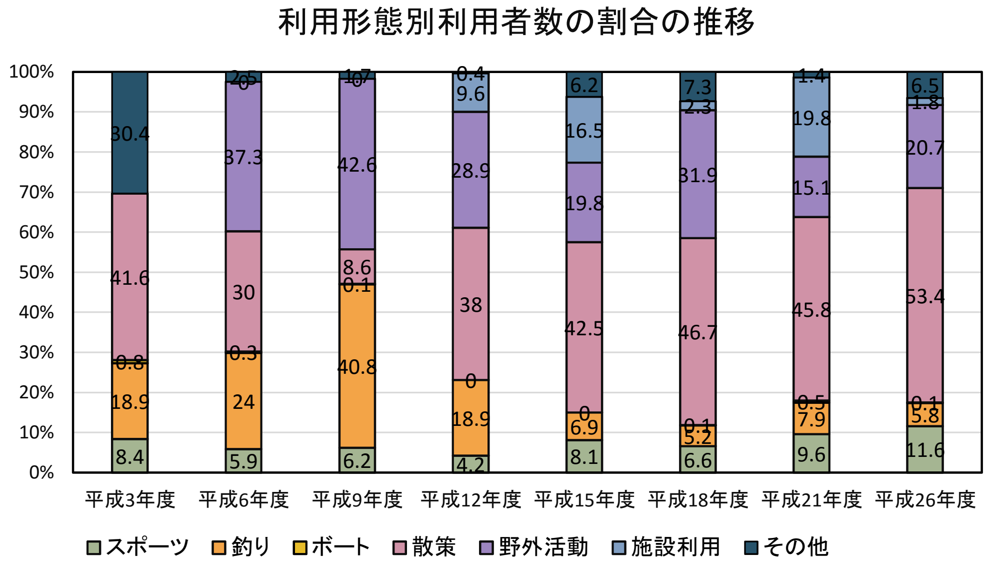


図 7.5-1 一庫ダムの利用者数（1 年間の推計値）及び利用形態別利用者数の割合の推移

（出典：平成26年度河川水辺の国勢調査結果[ダム湖版]（ダム湖利用実態調査、平成28年2月発行））

【参考:ダム湖利用実態調査の調査方法及び年間利用者数の推計方法】

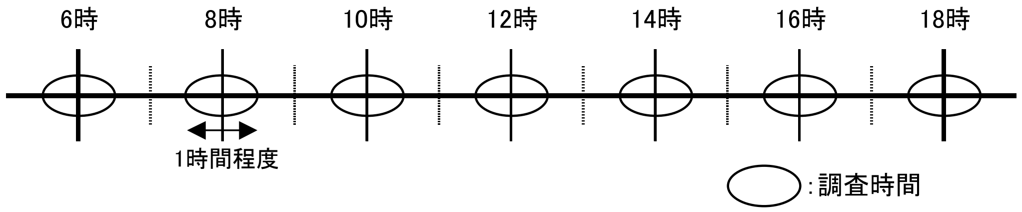
表 1.5.5　調査項目別調査内容・方法

調査項目	調査内容・方法等
ブロック区分調査	調査対象ダム及びダム湖周辺の環境整備に関わる基礎情報、利用者カウント調査に用いるブロック区分の情報、施設情報、及びその他として調査担当者に関する情報について把握し、結果を様式−1 と 2 にとりまとめる。
利用者カウント調査	全ブロックを対象として、目撃により利用者数（時間別、利用形態別、利用場所別等）をカウントする。原則として、調査は日の出から日没までの間に 2 時間毎で実施する。結果を様式−3 と 4 にとりまとめる。
利用者アンケート調査	利用者カウント調査時に、調査員が様式−5 を用いて、直接、利用者へ聞き取りを行う。
イベント調査	ダム湖周辺におけるイベントの開催状況・参加人数等について、ダム管理者や施設の運営主体等へ聞き取り調査を行い、結果を様式−6 に整理する。
施設利用者数調査	日利用者数を独自に把握している施設を対象に聞き取り調査を行い、結果を様式−7 に整理する。

表 2.1.1　利用者カウント調査の実施日

季節区分	曜日区分	調査日	天　候
春　季	休　日	平成 26 年 5 月 3 日（土）	晴
	休　日	平成 26 年 5 月 5 日（月・祝日：こどもの日）	雨
	平　日	平成 26 年 5 月 19 日（月）	晴
夏　季	休　日	平成 26 年 7 月 27 日（日）	曇り・雨
	平　日	平成 26 年 7 月 28 日（月）	晴
秋　季	休　日	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝日：文化の日）	晴 （一時雨）
冬　季	休　日	平成 27 年 1 月 12 日（月・祝日：成人の日）	雪・晴

利用者カウント調査は、日の出から日没（6 時、8 時、10 時、12 時、14 時、16 時、18 時、但し、秋季は 16 時終了、冬季は 8 時開始 16 時終了）の 2 時間毎に行い、調査時間を基準として前後 30 分（計 1 時間）程度の間に実施した。また、アンケート調査は原則として利用者カウント調査の実施時間帯の合間に行い、各調査実施日において 20 人以上を目標として実施した。



（出典：平成26年度河川水辺の国勢調査結果[ダム湖版]（ダム湖利用実態調査、平成28年2月発行））

(2) 利用者特性

ダム湖利用実態調査時に行った利用者アンケート調査の結果から、一庫ダム利用者の特性を整理した。

アンケートの回答者数は、以下のとおりである。

平成15年度	平成18年度	平成21年度	平成26年度
156人	198人	995人	173人

1) 利用者の属性

平成 21 年度と平成 26 年度の利用者数の年齢層を比較すると、30 代の割合が減少し、60 代の割合が増加している。全体としては幅広い年代に利用されている。

10 代の比率は、調査開始以来、他の世代に比べ一番低い。

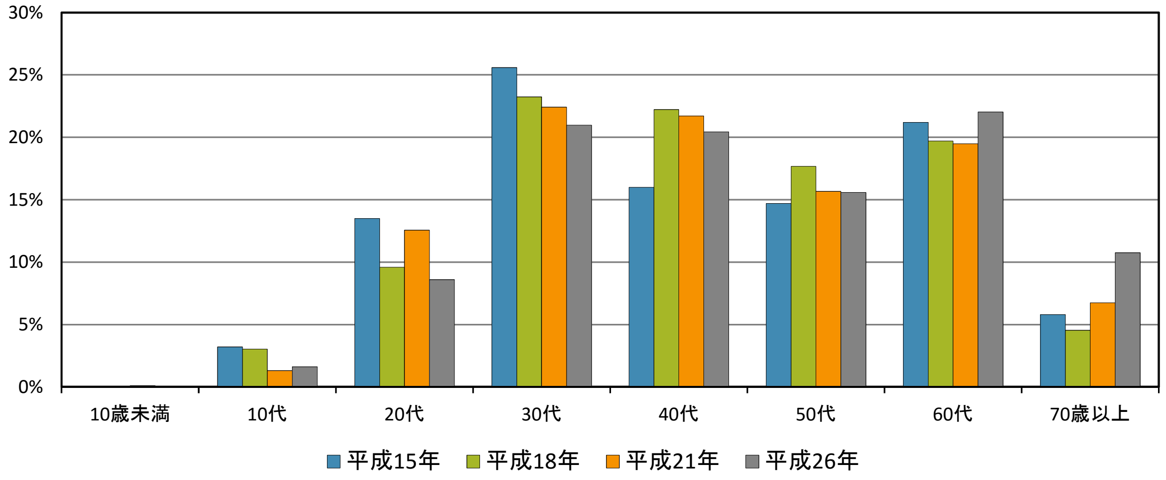


図 7.5-2 利用者の年齢層
（出典：平成26年度河川水辺の国勢調査結果[ダム湖版]（ダム湖利用実態調査、平成28年2月発行））

2) 利用者の居住地等

来訪者の居住地は兵庫県・大阪府が多く、二府県合わせて 9 割を越えている。京都府からの来訪者は、平成 15 年度は 2.0%、平成 18 年度は 1.6%、平成 21 年度は 2.4%、平成 26 年度は 1.5%である。市町村別では兵庫県川西市、猪名川町からの来訪者が減少し、大阪府や兵庫県のその他の市町村からの来訪者の割合が増加している。

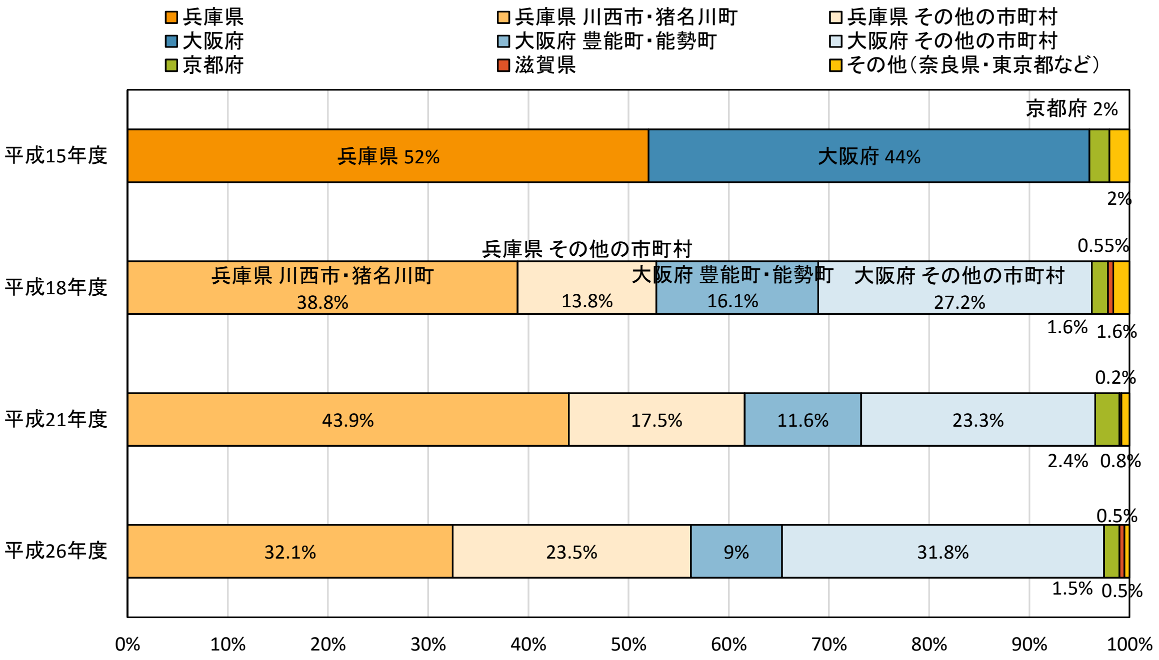


図 7.5-3　利用者の居住地等

(出典:平成26年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕〈ダム湖利用実態調査編〉)

平成 26 年度に一庫ダムを訪れた利用者は、リピーターが 81.8%となっている。また、平成 18 年度では家族で訪れる人が最も多かったが、平成 26 年度では家族で訪れる人が約 4 割に減少しており、一人で訪れる人と拮抗している。

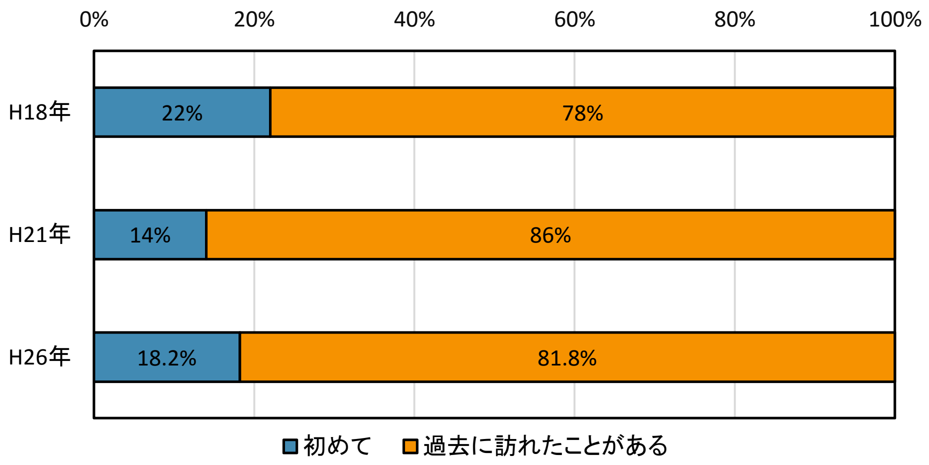


図 7.5-4 利用者の来訪経験

（出典:平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕〈ダム湖利用実態調査編〉）

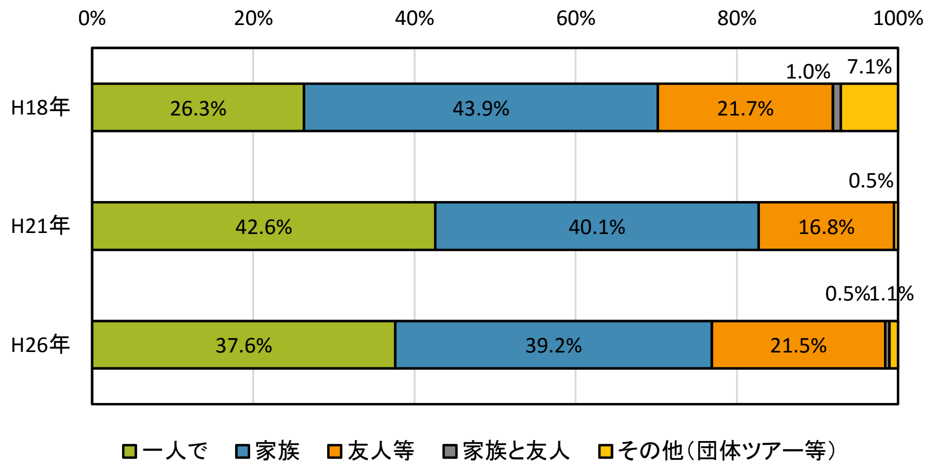
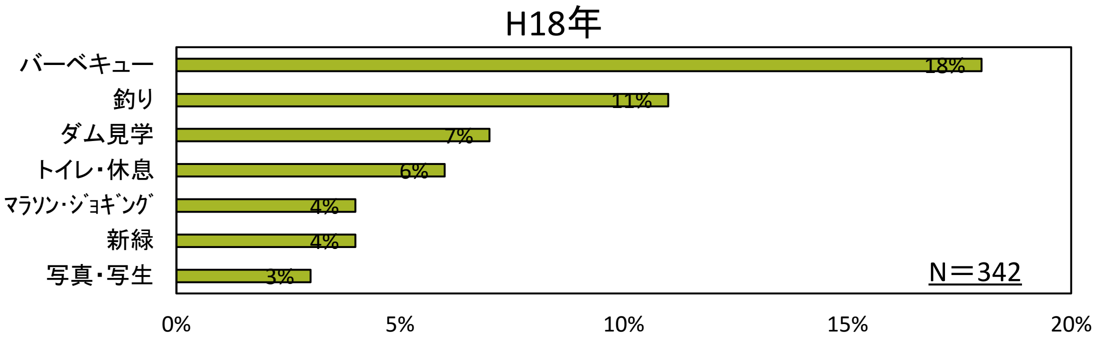


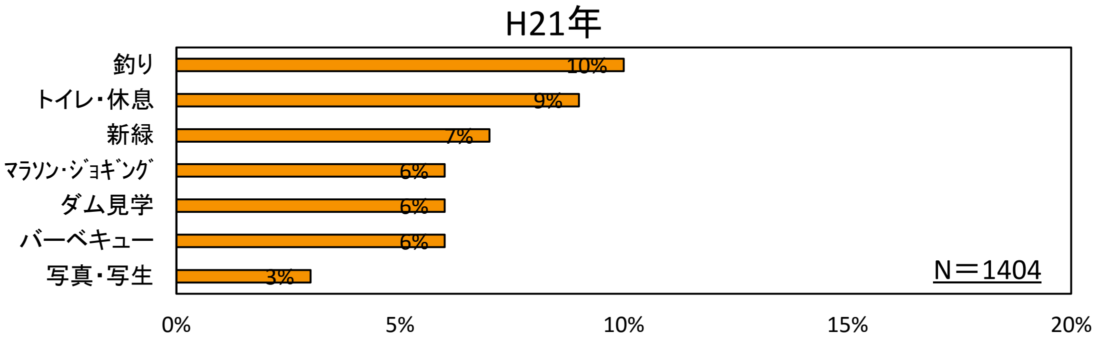
図 7.5-5 利用者の同伴者

（出典:平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕〈ダム湖利用実態調査編〉）

3）来訪目的

平成 26 年度に一庫ダムを訪れた主な目的は、「トイレ・休息」が最も多く、次いで「レジャーその他」「釣り」となっている。一庫ダムを目的とした来訪者が上位に上がっているが、平成 21 年度以降「トイレ・休息」などの立ち寄りが増えた。





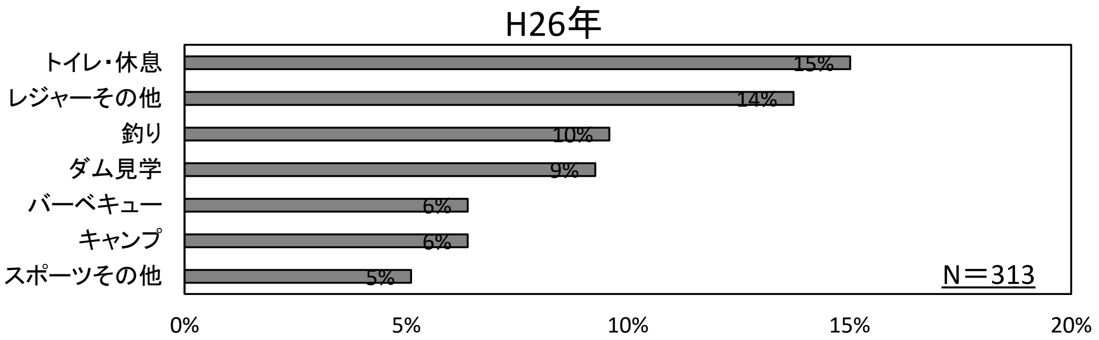


図 7.5-6　来訪目的

（出典：平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕〈ダム湖利用実態調査編〉）

4）利用者の感想

一庫ダム利用者の感想は、平成 15 年度、平成 18 年度、ともに「満足している」「まあ満足している」を合わせて 8 割を超えていた。平成 21 年度では約 8 割となったが、平成 26 年度には再び 8 割を超えた。

平成 26 年度には「やや不満である」「不満である」と回答した人は 6%程度であり、「川におりる所がない」「イスが少ない」といった施設に対する不満、「ごみが多い」といった利用者マナーに関する不満が見受けられた。

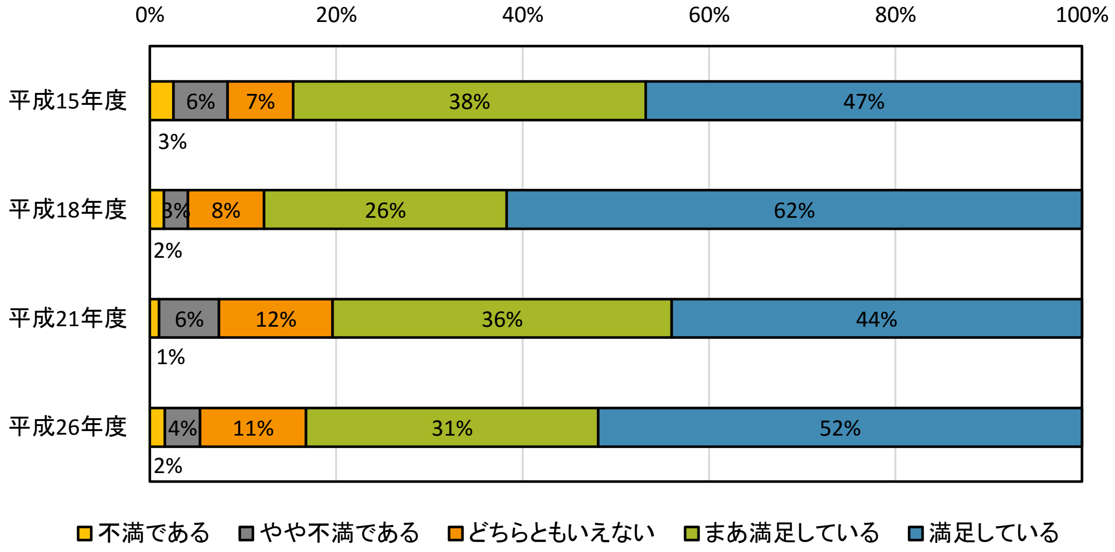


図 7.5-7 利用者の感想

（出典：平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕<ダム湖利用実態調査編>）

7.6. その他の関連事項

一般の方やイベント参加者にダムへの関心や興味を持ってもらう取り組みとして、一庫ダムではダムカードを配布している。

PR 効果を高めるため、管理所職員が手作りした季節別のダムカードが 4 種あり、全種集めた場合は記念カードも配布している。

PR 効果を高めるため、ダムカードを AR 化し、専用アプリでクレスト放流時のドローンからの空撮動画を見られるようにしている。

ダム見学に訪れた方への見学記念限定カードも配布されている。

一庫ダムのダムカード配布枚数は、プライベートカードの発行等により増加し、平成 30 年度は 2 万枚以上を配布している。

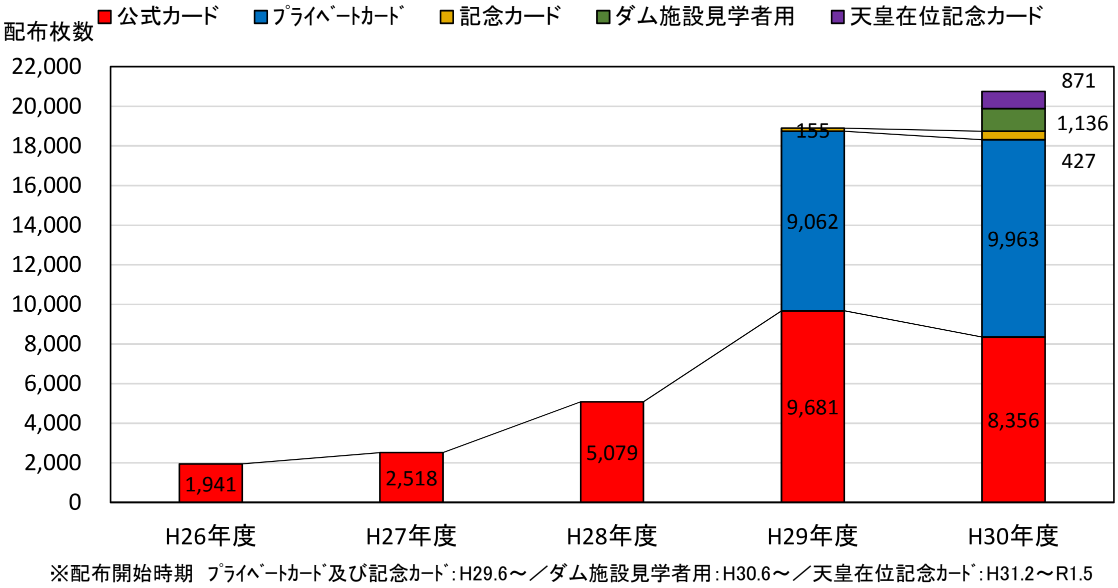
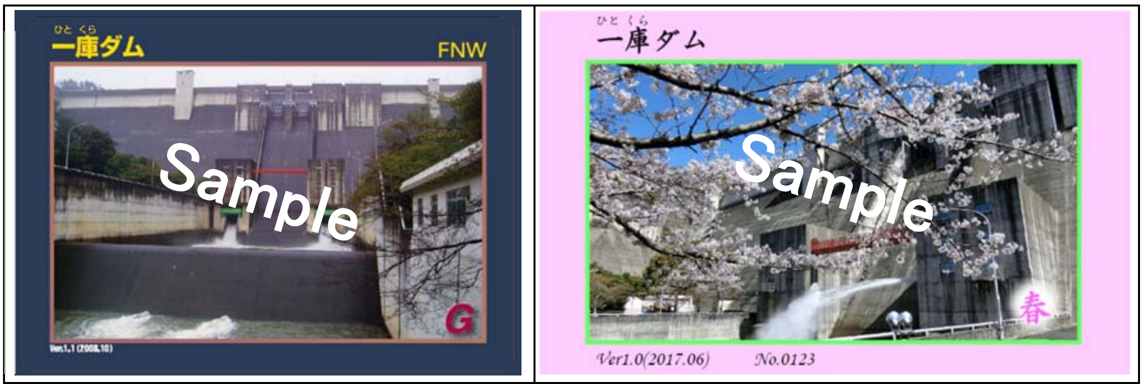


図 7.6-1　ダムカード配布枚数

(出典:一庫ダム管理所HP　(http://www.water.go.jp/kansai/hitokura/))



公式	プライベートカード（春）

図 7.6-2　ダムカード（左：公式、右：プライベートカード（春））

7.7. まとめ

○一庫ダム流域内における人口は、平成 12 年までは増加傾向であったが、その後は減少している。世帯数も、平成 12 年以降、減少している。

○一庫ダムは、兵庫県川西市の市街地から約 1～2km に位置し、自動車によるダムへのアクセス時間は、兵庫県猪名川町、大阪府の能勢町・池田市から 30 分以内、大阪府大阪市・堺市、京都府京都市から 1 時間程度の好アクセスであるため、兵庫県及び大阪府からの来訪者が 9 割を超える。

○ダム周辺には、年間利用者数推計によると、年間約 10～30 万人が訪れている。

＜ 今後の方針 ＞

○ダム周辺の利用者数をはじめ、地域の人口等の概要、観光施設等の水源地域動態を引き続き把握していく。また、今後も地域と連携した活動を積極的に実施していく。

○ダム周辺施設を活かした活動、イベント等に積極的に取り組むとともに、水源地域ビジョンの基本方針に基づき、今後も引き続き関係自治体、地元、NPO などとともに活動を推進していく。

7.8. 文献・資料リスト

表 7.8-1 「7.水源地域動態」に使用した文献・資料リスト

No.	文献・資料名	発行者	発行年月
1	一庫ダム管理所ホームページ	一庫ダム管理所	
2	一庫ダムのできごと	一庫ダム管理所	
3	平成 26 年～平成 30 年　一庫ダム管理年報	一庫ダム管理所	
4	平成 26 年～平成 29 年 一庫ダム年次報告書	一庫ダム管理所	
5	平成 18 年度　河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕(ダム湖利用実態調査編)	国土交通省河川局河川環境課	平成 19 年 2 月
6	平成 21 年度　河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕(ダム湖利用実態調査編)	国土交通省河川局河川環境課	平成 22 年 3 月
7	平成 26 年度　河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕(ダム湖利用実態調査編)	国土交通省河川局河川環境課	平成 28 年 2 月
8	一庫ダム工事誌	水資源開発公団一庫ダム建設所	昭和 59 年 3 月
9	川西市公式 WEB サイト http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/	川西市	
10	能勢町役場ホームページ http://www.town.nose.osaka.jp/	能勢町	
11	猪名川町ホームページ http://www.town.inagawa.hyogo.jp/index.html	猪名川町	
12	川西市第 5 次総合計画(平成 25 年～平成 34 年)	川西市	
13	川西市　緑の基本計画	川西市	平成 14 年 3 月
14	第 2 次能勢町環境基本計画　 4.施策の展開	能勢町	平成 24 年 3 月
15	(財)ダム水源地環境整備センターホームページ http://www.wec.or.jp/center/hyakusen/chimyoko.html		
16	水源地域ビジョン推進協議会パンフレット	水源地域ビジョン推進協議会	平成 30 年 2 月
17	水源地域ビジョン推進協議会　第 17 回推進協議会資料　一式	水源地域ビジョン推進協議会	令和元年 8 月 1 日